

知事記者会見の概要

日 時：令和2年9月7日(月) 10:00～10:25

場 所：502会議室

出席者：知事、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ6台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 東北・新潟共同メッセージについて

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

< 幹事社：毎日・産経・YBC >

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。日中は暑さが厳しいですが、朝夕には虫の音が聞かれるようになりました。季節は確実に進んでいると思います。文化の秋、芸術の秋であります。

今日はですね、東北6県と新潟県の知事、政令指定都市であります仙台市と新潟市の市長、そして東北観光推進機構の会長、合わせて10人から共同メッセージを本日お出しいたします。

現在、各県において、深刻な影響が生じている観光業の回復に向けて政府の「Go To トラベルキャンペーン」や各県独自のキャンペーンを展開しているところであります。ですが、まだまだ旅館・ホテルをはじめ、観光立寄施設においても厳しい状況が続いております。

また、観光関係者や「新型コロナ克服・創造山形県民会議」、それから地域での意見交換会などの場において、東北・新潟と連携してもらいたいという御意見もいただいたところでもあります。

それで、私からですね、隣県や東北観光推進機構に提案をいたしまして、近隣県である東北・新潟において、域内の皆さんが域内を行き来して、旅を楽しみながら、魅力を再発見していただくという趣旨の共同メッセージを出すこととなったものでございます。

では、私からメッセージを読み上げます。

「東北・新潟共同メッセージ～東北・新潟の魅力を再発見する旅に出かけよう～」

東北・新潟は、豊かな自然、その土地ならではの文化や歴史、温泉、美味しい食べ物、お酒など、世界に誇れる魅力に溢れている地域です。

東北・新潟では、現在、「東北・新潟応援！絆キャンペーン～旅を楽しもう～」を展開中であります。

東北・新潟の皆様には、域内を知り体験することは郷土に誇りを持ち、交流の輪を大きくする機会となりますので、各自治体や国の支援制度を利用し、東北・新潟の魅力を再発見する旅に出かけましょう。

旅行者の皆様は、「新しい生活様式」や「新しい旅のエチケット」を実践し、感染防止対策をしっかりと行って、東北・新潟の旅を楽しみましょう。

観光事業者の皆様は、ガイドラインを遵守した感染防止対策を徹底するとともに、感染防止に向けた取組を旅行者にもしっかりと情報発信し、旅行者に安心できる旅を提供いたします。

以上が共同メッセージでございます。どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、「県民泊まって元気キャンペーン」の利用拡大について申し上げます。

ただいまの共同宣言を踏まえ、「県民泊まって元気キャンペーン」の対象を山形県民限定から東北各県及び新潟県の県民の方へも拡大することといたします。

また、より一層お得に本県観光を楽しんでいただくため、「県民泊まって元気キャンペーン」と政府の「Go To トラベルキャンペーン」との併用を可能といたします。

いずれも来週 15 日の宿泊分から 1 月 31 日までの実施でございます。

ぜひ多くの皆様から本県、東北・新潟を訪れていただき、東北・新潟を、山形を満喫いただきたいというふうに思っております。

次に、「文化芸術の秋キャンペーン」の実施について申し上げます。

現在、県民の皆様を対象に「やまがたの文化応援キャンペーン」を実施しているところであり、芸術の秋であるこの時期に、より多くの方々に本県の優れた文化芸術を見て、触れて、感じていただきたいと考えまして、「文化芸術の秋キャンペーン」として、9 月 10 日(木)から 11 月 30 日(月)までの期間ですけれども、次に申し上げる 2 つの取組みを行うことといたします。

1 つ目が、県内の美術館・博物館等や山形交響楽団などを対象に、「やまがたの文化応援キャンペーン」の利用対象者の居住地を、現在の「県内」から「全国」に拡大いたします。

2 つ目が、全国の小・中・高・特別支援学校の児童・生徒が「美術館・博物館等」を利用する場合、入館料を無料といたします。

皆様には、この機会に文化芸術の秋を存分にお楽しみいただきたいというふうに思っております。

発表は以上でございます。よろしく願いいたします。

☆フリー質問

記者

日本経済新聞の浅山と申します。この新潟との共同キャンペーンなのですが、先ほど知事が「私から隣県や東北観光推進機構に呼び掛けて」とおっしゃいましたけど、この辺の経緯を、もう少し詳しくご説明いただけますか。なぜ今かということ、タイミングを含めてですね。

知事

はい、わかりました。まず経緯でありますけれども、やはり観光業界が非常に、コロナが始まってですね、コロナ禍の中で大変落ち込んでいるというのが現実として 1 つはございます。観光産業というのは本当に裾野が広いものですから、大変大きな影響、深刻な打撃を受けているというふうに認識をしております。

それで、もちろんコロナの感染防止と経済活動の両立ということも申し上げてきており

ますけれども、本当に観光はなかなか戻ってこないという現状がございます。

そういう中でですね、観光業界の方々から、やはり東北ぐらい拡大してですね、県内だけでは持たないと、東北ぐらいに拡大してもらえないかというようなこともお聞きをしておりました。それから、県内 4 ブロックで地域の首長さんとの意見交換会とか、県議会議員の皆さんとの意見交換会なども重ねまして、その中でも「東北・新潟に拡大したらどうですか」というようなご意見も複数いただいております。また、先週だったかと思いますが、新型コロナの克服・創造山形県民会議、その中でもやはり東北・新潟に拡大してはどうですかという、そういうふうにしてもらいたいというご意見を頂戴しました。本当に皆様方の強いニーズがあるというふうに、ニーズと言いますかご希望がありました。

それで私からですね、最初に宮城県の知事にちょっと連絡を取りましたところ、「大賛成」ということでありましたし、新潟県ともですね、花角知事ともお話ししたら、「全く同じ思いだ」というようなことでございましたので、あとは、担当から東北観光推進機構のほうにですね、お話を申し上げまして、東北 6 県・新潟、皆でまとまって共同宣言を發出して、東北・新潟の皆さんにもっと今のそれぞれの県内というところから広げてですね、東北・新潟再発見の旅に出かけようというような、こういうメッセージを出すことになったという、そういう経緯でございます。

記者

宮城県の知事に連絡されたのはいつ頃ですか。

知事

そうですね。定かにはちょっとあれですけど、先週より前だったと思いますね。だから、2 週間位前だったのかな。すごい概略で申し上げますと、2 週間位前だったのかなっていう、その位の感覚です。

記者

はい、ありがとうございます。

記者

朝日新聞の三宅と申します。今ご発表いただいた、具体策のほうを見ますと、この山形県でやっているキャンペーンを東北の方々にも開放して、来てくださいということはわかったのですが。

たとえば、我々、山形県民は東北各県でたぶん同じような各県のキャンペーンをやっていると思うのですが、**「そこに来てください」**ということには今の段階ではならないのですか。

知事

「来てください」というのは、9月15日から始まって。

記者

私ども山形の者がですね、たとえば新潟県でやっている名前は知りませんが、新潟県民対象のキャンペーンにもどんどん行って、それで同じような割引を受けられるという内容なのですか。

知事

山形県ではそのように、東北・新潟全体にということに考えておりますし、そういう県も何県かありまして、またちょっと違う県もございますので、全く統一ということではございません。それぞれの事情もございましてですね、その違いもありますので、全く他の県でも同じようなことを受けられるという県と、そうでない県もございますので、その違いをやはり皆さんにお知らせすることが必要だと思っております。それについて、各県の対応をですね、ホームページなどでお知らせするようにしたいと、またプレスもですね、東北6県と新潟の7県について、どういう対応になっているかというのをお知らせ申し上げたいというふうに思っております。

記者

この会見の後に細かいことはということだったので、その場にさせていただきます。ありがとうございました。

知事

はい、ありがとうございます。

記者

山形新聞の大坪と言います。先ほど知事から宮城県知事への、2週間前位に申し入れをしたという件でなのですけれども、どうしてこのタイミングになったか、というあたりをもう少し詳しく教えていただけますでしょうか。

「Go To」から1か月経って、また夏休みで観光需要が期待されていたところで思ったほど見込みが少なかったとか、そういったことが影響しているのでしょうか。

知事

あのですね、観光業界のいろいろな情報というものを担当から聞いておりますけれども、また業界の方から直接も聞いておりますけれども、4月5月はとにかくもう、全面的にもうストップというような状況でありましたが、6月になって少し戻ってきたというのがありま

した。それで7月にだいが戻ってきたと。100には行きませんが、それぞれの宿泊施設、観光立ち寄り施設によって差もございますけれども、前年比というようなことで申し上げて、「7月はだいが良くなってきた」というのが聞かれたところでした。そのまま右肩に上がっていくのかなと思っていましたらば、「8月になったら逆に下がった」ということが聞こえてまいりました。それでちょっと危機感を持ったところでもあります。そういった状況でですね、ここは何かもっと前に思いきって手を打たなければというような思いを持ったところでもございました。そういったことがやはり大きかったかなと思います。現場の状況を見てですね、そのようなことを考えたところでもあります。そして、いろんな業界から、先ほど申し上げたようないろんな場面で対象を拡大してはどうかというようなご意見も頂戴して、それで、それを本当に真剣に考えてこのような連携ということで拡大というところに至りました。

記者

さくらんぼテレビの白田です。「元気キャンペーン」利用拡大というところで、今、知事から危機感とありましたけれども、「元気キャンペーン」の利用状況が思うようにいっていないのか、その辺、知事の認識を教えてください。

知事

そうですね。「元気キャンペーン」ですね。観光業界とそれから担当からも両方から聞いておりますけれども、あまり芳しくないというのが正直なところでもあります。やはり、「元気キャンペーン」は県内限定でございました。そこへ、県内、そしてまた輪を広げて、そして全国の「Go To」につなげていこうというような考え方が当初あったわけなのですが、でも、「Go To トラベル」が前倒しになってですね、7月の22日から開始となったということは皆様ご案内だと思います。そうやってですね、「Go To トラベルキャンペーン」のほう割引率が良くなるケース、特に単価の高い宿泊施設においては「Go To」のほう有利だということを聞いております。逆に単価の低い所は「元気キャンペーン」のほう使いやすいというようなことも聞いているのですけれども、全般的に「Go To トラベル」のほう、割引が良くなるというようなことを聞いております。で、「元気キャンペーン」との併用についてですね、宿泊施設や旅行業の方々から、利用者の方からも、多くのご意見、併用したらいいのではないかと、そのほうが助かるのだけど、というようなご意見も頂戴しておりましたので、なかなか観光の実態がですね、順調に伸びていかないというような状況の中では、やはりしっかりと併用ということまで拡大するというふう考えたところでもあります。

記者

今日の共同宣言とこのキャンペーンの拡大にあたっては、この域内のコロナの感染状況

というのが非常に大事だと思うのですが、知事は、県内だけではなくてこの東北・新潟の現在の感染状況についてはどう認識されていますか。

知事

そうですね、完全に終息しているとは思っておりませんが、本当に皆さん懸命に取り組み、また頑張っていますね、だいぶ抑えられているのではないかと、というふうに思っております。それはもちろん域内の住民の皆さんが、「新しい生活様式」をしっかり定着させていたり、また業界別のガイドラインがありますけれど、事業者の皆様がそういったことをしっかりと取り組んでおられる、また旅行する方もですね、やはり新しい旅のエチケットというようなことで、それを順守して、旅行先を訪問してくださっているので、お互いにそういうことを、新しい日常というのでしょうか、そういうことを考えながら実行していただいているので、割合落ち着いている、そういう所での拡大ということも考えた。その前段として、前提条件になるかと思うのですが、そもそもですね、東北6県と新潟県というのは、コロナの前を考えますと、ずっと連携してきました。東日本大震災以降ですね、大変な、東北は落ち込んでおりました。そこをですね、東北観光推進機構が牽引してくださいまして、やはり東北6県知事、途中から新潟県の知事も入って、インバウンドなどはもう本当に連携してずっと取り組んできたという、そういう経緯もございます。そういったことも考えますと、やはり今、こういうチャンスではないかなと思っております。あとは来年ですね、4月から9月までだったかな、東北6県のDCがあります。東日本大震災10年目というようなことだったと思いますけれどね。その6県DCも来年に迫っておりまして、そのプレ的な意味でもね、やはりいろいろな連携ということは今から模索して考えて実行しておくというのは、大変有効なのではないかというふうにも考えたところです。

記者

NHKの志子田です。先ほどの質問の中で、知事の回答の中に、要は県の単体でやっているこの「元気キャンペーン」、あまり成績というかですね、状況としては芳しくないというようなお話もあったのですが、それを踏まえた上でですね、今回のその共同宣言におけるこのキャンペーンのですね、成果的な目標及び、当然付随して振興の対策というの、当然より一層しっかりしたものを同時進行で進めなきゃいけないと思うのですが、その辺の2つについてどのような目標というかですね、どのような期待値を持っていらっしゃるのかというのを改めてお聞きします。

知事

はい。今記者さんのご質問にありました目標値というようなまでは持ち合わせておりませんが、今、本当に観光業界はですね、低迷をしております。コロナ禍というようなことで、ウィズコロナということで、皆さんがやはり、生活についてはウィズコロナと

というのがだんだん定着してきているのかなと思うのですが、旅行マインドというのはまだまだ戻っていないと思います。それを考えますとですね、この7県の知事、そして2つの政令都市の市長、更に東北観光推進機構の会長、10人が共同メッセージをお出しすることで、東北・新潟の皆さんに、少しでも東北・新潟再発見の旅に出かけようというようなマインド、旅行マインドというものを少しでもですね、啓発というか醸成といいますか、戻っていただきたいなというふうに思っております。

そして、もちろん経済的な状況が非常に深刻な状況になっているわけでありますので、やはりたくさんの方々に東北・新潟域内を巡っていただいでですね、経済活性化にも資することに繋がるということを大変期待をしております。もう本当に「Go To キャンペーン」、また、それぞれの県のキャンペーンもございますので、もう全部使い切っていただくぐらいの勢いで進んでいただければなと思っております。そのうちの1つの本県のインセンティブというのでしょうか、美術館というような所も大いにですね、美術館、博物館というような所も割引、子どもは無料というふうにいたしますので、大いにいろいろな所を巡って、この秋を楽しんでいただければというふうに思っております。